

式辞

日本が世界が新型コロナウイルスに怯え振り回され、生活様式の変更を余儀なくされる中でも季節は確実に冬から春に変わり、グラウンド脇の桜の蕾も膨らむ中、今年度も卒業式の日を迎えました。残念ながら在校生の出席は叶いませんでしたが、同窓会水陵会 名誉会長 杉原弘一郎様をはじめ、保護者の皆様の御臨席を賜り、卒業式を挙行できますことに厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様には、今、入学時とは見違えるほどに心も体も立派に成長し、自らの進路に向かって力強くその一步を踏み出そうとしているお子様の高等学校卒業の晴れ姿をご覧になり、喜びもひとしおのことと拝察いたします。これまで本校にいただきました御支援、御協力に対しまして、改めまして感謝申し上げます。

さて、百四十三名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんの脳裏には今、米子南高校での三年間の様々な場面が走馬灯のように駆け巡り、友人や後輩、恩師との思い出に胸を熱くしていることと思います。それら一つ一つは皆さんにとってかけがえのない財産であり、また、これからの長い人生の礎になるものです。

私は皆さんに、『出会いと挑戦が成長を支える。米子南高在学中に沢山の人や場面に出会い、様々なことに挑戦して大きく成長し、また、それを実感して欲しい』と話してきました。しかし、昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響で様々な大会や体験の機会が中止あるいは規模を縮小され、学校外の人と関わる活動も大きく制限を受け、成長の原動力となる出会いが減少しました。そのような中でも皆さんは、自分たちにできることを模索し、自分の目標に向かって努力を重ね、新たなことに挑戦してきました。また、今まで「当たり前」だと考えていたことがそうではなかったことや日常を支える多くの人の存在に気付くことができました。そのことで皆さんは例年とは違う成長をしたはずです。先月の「米南みつばち学習発表会」での皆さんの発表はそれを証明してくれたと感じています。

これから職業人として家庭人として、長い人生を歩んで行かれる皆さんは、仕事において、人との関わりにおいて、様々な困難や課題に直面することと思います。卒業に当たり、そんな時にぜひ思い出し、実践して欲しい「ものの見方・考え方」の視点についてお話しします。

一つめの視点は、「鳥の目」。鳥は、大空を高く飛びながら生活しています。だから、鳥は全体を見渡すことができます。視野を広くすることで、様々な情報を一度に知ることができるのです。仕事でも、人間関係でも、何か大きな問題が起こった時には、まずは全体を見るのが大切です。そうすることで、物事を一步後ろから客観的に見渡すことができます。「鳥の目」とは、全体を俯瞰する目、マクロの視点です。

二つめの視点は、「虫の目」。虫は、私達人間よりもはるかに小さい生き物です。だから、私達が普段であれば見過ごしてしまうような“小さなこと”にも気付くことができます。何か問題が起こった時には、原因を追求する必要があります。そんな時に、物事の中の、ほんの僅かな小さい部分に目を向けることで、解決の糸口を見つけられることがあります。「虫の目」とは、物事を

細分化し、掘り下げて詳細に観る目、ミクロの視点です。

三つめの視点は、「魚の目」。魚は、体の様々な器官を使い、潮の流れを読みながら泳ぐ方向を決めています。だから、物事の流れを読み解き、進むべき正しい方向を決めることができます。何か問題が起こった時には、“全体の流れ”を把握しなければ、解決に導くことはできません。そんな時、魚の目を意識することで、物事の本質を見抜くことができます。「魚の目」とは、時代や環境の変化・流れを読む目、トレンドの視点です。

四つめの視点は、「コウモリの目」。コウモリは天井にぶら下がって逆さまにモノを見ます。コウモリには私達と違う世界が見えているのかも知れません。何か問題が起こった時には、問題を様々な角度から見る必要があります。時には今までの自分の考え方を必要になります。「コウモリ」の目とは、物事の反対から観たり普通の見方にとらわれず、想像を膨らませたり、固定観念を取り払って常識を疑う目、リバースの視点です。

そして最後、五つめ。『じゃあ秘密を教えるよ。とても簡単なことなんだ。心の目で見るとだよ。大切なことは目に見えないんだ。』。これは、フランスの飛行士であり作家のサン・テグジュペリの小説「星の王子さま」の中で、黄色い狐が王子さまに語った言葉です。家族や友達、愛する人を大切にしたいや愛情は目に見えないものです。しかし、そこには確かに絆や愛や思いやりの気持ちがあり、共有した時間があります。狐の言葉は私達に、目には見えないけれどとても大切なものがあること、そして、それは「心の目」で見ないと見えないことを教えてくれます。ただ目に映るものが必ずしも真実とは言えません。皆さんには物事の本質、真実を見定め、本当に大切なものを見つけるための「心の目」を曇らせたくないよう、磨き続けて欲しいと思います。

卒業はゴールではなく、新たなステージへのスタートです。激しく変化し、予測困難な社会に一步を踏み出していく皆さんには、米子南高校での三年間で得た知識や技術、心構え、そして、かけがえのない友人を武器として、自らの目標に向かって力強く、着実に歩みを進めてくれることを期待し、餞として、私の好きな歌手、半崎美子さんの曲『明日への序奏』の一節を贈ります。

飛び立つための助走を どこまでも続けてみよう
その先に見える景色はいつも新しい
導くための序奏は 誰よりも自由でいよう
未来はいつだって始まったばかり
今この瞬間が輝きはじめる

卒業生の皆さんの前途が洋々たるものとなり、幸多からんことを祈念するとともに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息し、皆が笑顔で語り合い、生活できる日が来ることを願い、式辞といたします。

令和三年三月一日

鳥取県立米子南高等学校
校長 永野 智之